

リーダーの器量

2003年10月に社員に向けたお話を一つ紹介させていただきます。各界の著名人が残した“リーダーの器量”に関する言葉です。

○新日本製鐵会長 永野重雄さん（広島県出身）

「私の悪口はすぐに報告せよ。しかし、言った人の名は言うな」

○石川島播磨重工・東芝社長、経団連会長 土光敏夫さん（岡山県出身）

「私たちのまわりには、ごく僅かだが“火種のような人”がいる。その人のそばにいと、火花がふりかかり、熱気が伝わってくる。じつは職場や仕事をグイグイ引っ張っているのはそんな人だ」

○西鉄ライオンズ監督 三原侑さん（香川県出身）

「選手を掌握すると言っても、虎を飼いならして羊にしてしまったのではどうにもならない。虎は虎として十分に働いてもらわんといかんというのが、勝負の世界を勝ち抜く管理者の要諦ですな」

○ユニ・チャーム創業者 高橋敬一郎（愛媛県出身）

「企業はリーダーの“器量”以上には成長しない」

○阪急ブレーブス監督 上田利治さん（徳島県出身）

「ええで。ええで。」・・・その気にさせる

「人の人生、真っ直ぐに行くことはない。こっちの道も、あっちの道もある」

○アスキー創業者 西和彦さん（神戸市出身）

・・・マイクロソフト・ビルゲイツ氏から「もっと株を渡すので、マイクロソフトの仕事をしてくれないか」という申し入れを断った人物です。

「IFは未来にしかない。過去にはWhyしかない」

「ときには『NO、絶対ダメ』と言うことも必要で、『やってみなさい』と簡単に言うという優しさなんて、単なる甘さだった」

おまけで、当社の創業者・片岡隆次（岡山県出身）も同じようなことを言うておりましたが、王子製紙初代社長 藤原銀之助さん（信濃国出身）の名言で締めくくります。

「偉くなったら、バカになる修業をせよ」

7月26日に始まったオリンピックも11日に閉幕を迎えます。

『僅か1ポイントに泣いた選手と笑った選手』に、最後の詰めの大切さと怖さを教えていただいたパリ大会でした。

「マレーシアの歩き方（新会員スピーチ）」



本日は、2018～2021 年まで赴任していたマレーシアについてお話します。夏休みに入られる方がいらっしゃるので、少し旅行気分も味わってもらえればと思います。タイやベトナムなどは旅行先としてメジャーですが、マレーシアはなかなか選ばれませんので、この卓話で興味を持っていただければ幸いです。

まず、マレーシアの地理と自然からお話いたします。マレーシアは、マレー半島の南部を占める半島マレーシアと、南シナ海を隔てたボルネオ島からなります。首都はクアラルンプール、面積は日本とほぼ同じです。そのうち 70%近くは熱帯性のジャングルでおおわれております。気候は年間を通じて、昼は 32～33 度、夕方にスコールが降ることも多く、夕方から夜はだいたい 25 度くらいまで下がり、日本の夏よりよっぽど過ごしやすいです。人口は約 3,300 万人ですが、若年層が多く、2050 年には、4,300 万人まで増加すると予想されております。これは、人口の 70%以上を占めるイスラム教徒では、多産が美德されていることも一つの要因と言われております。

次にマレーシアの歴史についてです。マレーシアの歴史は大きく 6 つに分けられます。1 つ目は紀元前後からシュリーヴィジャヤ王国の成立まで、2 つ目はマレーシアの原型となる 14 世紀のマラッカ王国の成立、3 つ目は大航海時代に香辛料を求めてやってきたポルトガル、オランダによる支配、4 つ目は 19 世紀のイギリスによる植民地、5 つ目は第二次世界大戦中の日本による支配、6 つ目は大戦後のイギリスからの独立となります。

続いてマレーシアの政治経済についてです。マレーシアは民主主義で、東南アジア諸国の中でも政治は安定しております。首相はアンワル・イブラヒムで、2022 年 11 月の連邦下院の総選挙が実施され首相に任命されております。国教はイスラム教です。外交方針は、イスラム諸国との協力、大国との等距離外交とどの国とも等距離で対外経済関係の強化を図っております。対日関係については、1980 年～2000 年にかけて、マハティール首相（当時）が提唱した「東方政策（ルックイースト政策）」により、経済面や文化交流が増え、今でも親日国です。主要産業は、製造業（電気・電子部品）、農林業（天然ゴム、パーム油、木材）及び鉱業（錫、原油、LNG）がそれぞれ 3 分の 1 ずつと、産業はバランスよく分散しております。1 人当り GDP は、12,570 ドル（2023 年）（日本は 33,806 ドル）と、他の東南アジア諸国の中ではシンガポールの次に高く、普段の生活は日本とあまり変わらない水準です。

ここからは、マレーシアの観光についてお話いたします。まずは主要な都市についてです。1 つ目はクアラルンプールです。現在は、近代的な高層ビルやショッピングモールが立ち並ぶ大都会であり、一步小道に入ると、モスクや寺院、ローカルな屋台がひしめきあう活気に満ちた都市です。有名なペトロナスツインタワーは、世界 No.1 のツインタワーで、下にはショッピングモールが入っています。なおペトロナスというのは、マレーシアの国営石油企業で、売上高約 10 兆円のマレーシアを代表するグローバル企業になります。その本社が入っているのがこのタワーになります。

2 つ目の都市はペナンです。ペナン島はマレー半島の北にあり、昔から観光地として多くの

旅行者に愛されてきました。ジョージタウンの歴史地区は世界遺産に登録され、古き良き雰囲気の良い美しい街並みが楽しめます。

3 つ目の都市はマラッカになります。マラッカは、マレー半島南部に位置しています。この町は、15 世紀にマラッカ王国として誕生し、マラッカ海峡を東西貿易の要衝として大きな富を築き上げました。16 世紀以降、ポルトガル、オランダ、イギリスがこの地を支配し、世界でも類を見ない多様性に満ちた町となりました。マレーシアの文化には中国文化の影響も大きく、そこにヨーロッパの文化が融合した「ババ・ニョニャ文化」がマラッカの特徴となります。

最後に、ボルネオ島になります。島の北部には世界遺産のキナバル公園などの広大な森があり、オランウータンやラフレシアといった珍しい動植物が生息しております。また富士山よりも高いキナバル山があります。私も自分の息子が駐在当時小学校 4 年生で、カブトムシやクワガタが大好きだったため、ツアーでキナバル山の中腹にある昆虫の研究所へ行きました。夜にライトトラップ（映画のスクリーンくらいの白い布を立て、そこに光を当てて虫を集める方法）を行い、大きなカブトムシやクワガタを大量に収集したのを覚えております。

続いて、マレーシアのホテル事情についてお話いたします。マレーシアは世界遺産など少ないですが、高級ホテルが割安に泊まれる国の 1 つです。高級ホテルでゆっくり過ごし、街歩きを楽しんで、美味しいもの食べるといった過ごし方が楽しめます。ここではマレーシアにある高級ホテルをいくつか紹介いたします。まずクアラルンプール中心部にあるシャングリラホテルになります。シャングリラホテルは香港が本拠地のケリー・グループが経営するホテルチェーンですが、マレーシア出身の中国系企業家ロバート・クオックが創業したホテルで、マレーシアとゆかりのあるホテルになります。海外ではホテル料金は 1 部屋でいくらとなりますので、このシャングリラホテル定員 2 名 1 部屋の料金が 19,935 円ということは、1 人当たりだと 1 万円を切る値段になります。

同様にこちらにもクアラルンプールの有名な高級ホテルになりますが、1932 年に建設されたマレーシア初ともいえるラグジュアリーホテル、マジェスティックホテルです。サマセット・モームや各国王族など VIP やセレブを多く受け入れてきたホテルですが、一度廃業し 2012 年にマレーシアの財閥によりホテルとして復活しました。蘭に囲まれたガラス張りの喫茶室（オーキッドルーム）があり、そこでのアフタヌーンティーが非常に有名です。こちらにも定員 2 名の 1 部屋の料金が 19,170 円になり、1 人当たりだと 1 万円を切る値段になります。

最後に、お正月の番組で有名な一流芸能人の GACKT が、10 年ほど前からマレーシアに住んでおり、その GACKT がマレーシアに移住した理由を話していましたので、その言葉を紹介いたします。マレーシアは、「気候が安定していて乾燥しない。」「日本との時差が 1 時間、日本でも仕事をするため、時差が小さいほうがいい。」「食事が美味しい。世界中の食事が集まっていて、レベルは高い。ヨーロッパや米国だと、料理の価格と味が見合っていない。」「車が好きで、自分で運転できる。」「世界各国に住んだが、クアラルンプールよりも住みやすい街はない。」とのことでした。

マレーシアは、クラス中で目立たないけど優秀な子というイメージの国になります。ただ、よく知るとリーズナブルでとても住みやすい街なので、皆さんにはぜひ一度で行っていただきたいと思います。